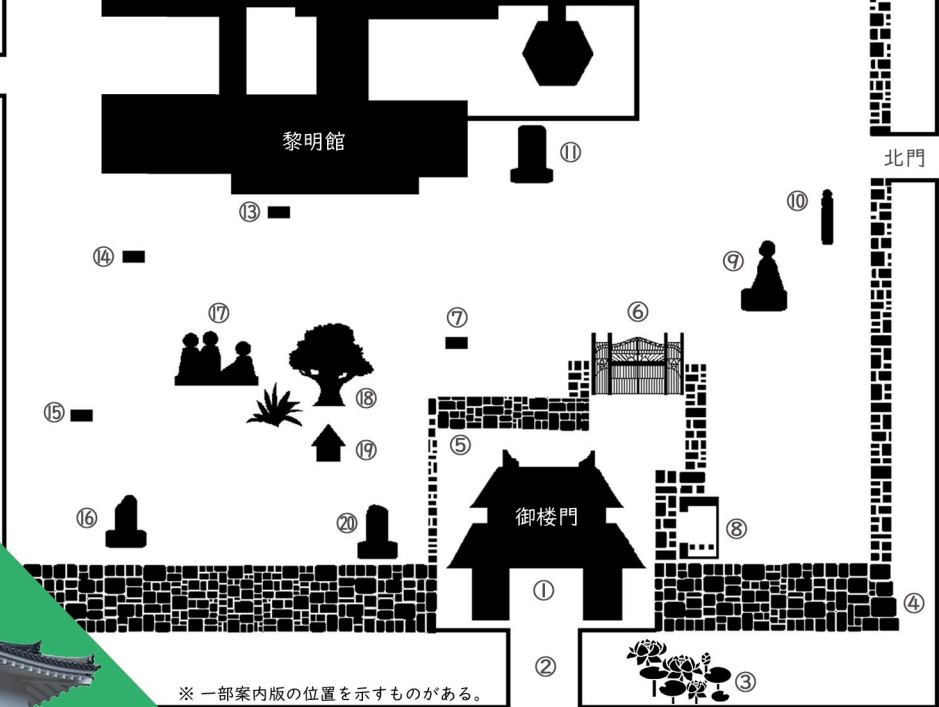


黎明館 敷地散策 ガイド（東側編）



① 御楼門（ごろうもん）

明治6（1873）年に火災により焼失。
令和2（2020）年3月に復元。

② 御楼門橋（ごろうもんばし）

御楼門に至る石橋。
慶長11（1606）年に板橋（木の橋）が架けられ、
文化7（1810）年に石橋に架け替えられた。



③ 蓮

初夏に薄紅色の花を咲かせる多年植物。
濠の蓮の由来は諸説あるが、平成12（2000）年に七高史研究会がまとめた「七高造士館で学んだ人物（名簿編）」によると、丹下丑之助の項目に「丹下梅子の兄 鶴丸城の堀に蓮を植えた」とある。
丑之助は明治34（1901）年から2年間、第七高等学校造士館の数学教師、及び教頭を務めた人物で、丹下梅子（日本人女性2人目の博士号取得者）の兄。

④ 石垣と隅欠（すみおとし）

敷地の周囲は濠の石垣に囲まれている。
鬼門にあたる北東の石垣は角が欠けており、災い除けと考えられる。

⑤ 弾痕跡

御楼門周辺の石垣に見られる無数のくぼみの多くは、明治10（1877）年の西南戦争の際の弾痕跡で、政府軍の攻撃の凄まじさを今に伝えている。

⑥ 第七高等学校造士館時代の門柱

いつ建立されたものかは不明。
御楼門側から見て右から2番目の柱は、損傷が著しかったため、黎明館開館当時に新造。

⑦ 排水溝跡

石垣に沿うように排水溝が設置されており、通水の機能がある裏込石が充填され、水漏れを防ぐ漆喰塗りが見られる。実際の遺構は埋め戻し、その上にレプリカを設置している。

⑧ 御兵具所（おひょうぐしょ）跡

武器類を保管していたと考えられる場所。
現在は建物の基礎と思われる石等を露出展示している。

⑨ 天璋院像（てんしょういんぞう）

文化勲章受章者中村晋也氏制作の天璋院（篤姫）像。
平成22（2010）年12月19日建立。
ちなみに、12月19日は天璋院の誕生日である。



⑩ 新橋橋柱（しんばしきょうちゅう）

鹿儿岛（鶴丸）城の北側にあった吉野橋濠に架けられていた新橋の橋柱。
吉野橋濠は現在のかごしま県民交流センターと鹿儿岛市立長田中学校との間の道路部分にあった濠。

⑪ 聚珍寶庫碑（しゅうちんほうこひ）

島津重豪（しまづしげひで）が、文政10（1827）年に江戸高輪の藩邸内に建てた「聚珍寶庫」（珍しいものを集めた宝物庫）の由来等を記した碑。
平成12（2000）年、東京都大田区南雪谷の旧島津邸から移設された。

⑫ 御野立所（おんのだてじょ）跡の碑

昭和10（1935）年11月17日、昭和天皇が鹿儿岛行幸の際に第七高等学校造士館を視察され、ホッケー競技を御覧になった。
この視察を記念して、昭和13（1938）年に建立。

⑬ 鹿儿岛大学医学部跡記念碑

平成27（2015）年7月、鹿儿岛大学医学部創立70周年・西洋医学開講150周年を記念して建立。

⑭ 麒麟の間（きりんのま）跡と能舞台跡

鹿儿岛（鶴丸）城の発掘調査で能舞台に連なる橋掛り（はしがかり）と呼ばれる施設の一部が見つかった。これらは、絵図等に記されていた位置と合致しており、鹿儿岛城内に能舞台があったことが確認された。
現在、能舞台に隣接していた麒麟の間の基礎があった場所にツツジを植栽し、建物のおおよその位置を示している。

⑮ 御角櫓（おすみやぐら）跡

御角櫓は鹿儿岛（鶴丸）城本丸居所の内濠に面した南端に位置する櫓。
高さ20m、幅は約7.5mの建物だったと推測される。
13代将軍徳川家定の御所となる篤姫（のちの天璋院）と典姫（斉彬の娘）が、嘉永6（1853）年6月15日に、御角櫓から祇園祭を見たとの記録が残っている。

⑯ 明治天皇行幸記念碑

明治5（1872）年6月22日、明治天皇の鹿儿岛行幸を記念して、明治45（1912）年6月に建立。碑銘「行幸記念碑」は、松方正義の揮毫である。

⑰ 七高生久遠の像

第七高等学校造士館開校85年を記念して、昭和60（1985）年10月に七高同窓会により建立。「知・情・意」を象徴する七高生の姿をあらわしている。

七高造士館跡の碑
昭和34（1959）年10月建立。



寮歌・記念祭歌 歌碑
平成2（1990）年10月建立。
北側の碑には「楠の葉末」、
南側の碑には「北辰斜に」が刻まれている。

⑱ 七高ゆかりの植物

楷の木（かいのき）
中国山東省曲阜にある孔子廟の楷の木の種子から育てられたものだったが、戦災で枯死した。
現在の楷の木は、昭和58（1983）年12月7日に七高同窓会から寄贈・植樹されたもの。



竜舌蘭（りゅうぜつらん）
七高時代、敷地内に大きな竜舌蘭があり、学生たちに愛されていた。
現在の竜舌蘭は、元々七高にあった株が卒業生の間で引き継がれており、その株を楷の木と同じ日に植樹したもの。

⑲ 水神その他の石碑等

水神の石碑、頭部のない坐像、地神の石祠などがまとめて安置されている。
いづれから今の場所に置かれたのかはわからない。

⑳ 従三位島津重豪公頌徳碑 （じゅさんみしまづしげひでこうしょうとくひ）

藩校造士館を創設した島津重豪の徳を称えて、昭和17（1942）年11月に建立。